



さかいっこ かけはし通信

No.14 2026. 8

堺市幼児教育センター



園では、生活や遊び(活動)の中に、小学校教育につながる学びの芽がたくさんあります。小学校教育の先取りではなく、こどもの「やってみたい」を大切にすることが学びの連続に重要です。

栽培活動を通した 数量感覚の育ち



学びの芽

幼児期には、数や数字について教えるのではなく、こどもが数や量を経験の中で実感できるようにすることが大事だね。

クラスみんなで合わせると何本取れたかな？

〇〇ちゃんのキュウリとどっちが長いかな？



大きな葉っぱがいっぱい。

この2本、もうとれるね！

赤ちゃんキュウリもあるよ。

「大きいよ。」「小さいね。」「〇本あるよ。」「どっちが長いかな？」「合わせると・・・」その他、数量感覚の育ちにつながる学びの芽がたくさんあります。こどもたちが、わくわくしながら身近なものを数えたり比べたりできるように、環境や保育を工夫することがポイントですね。

保育や環境構成 の工夫(例)



天秤で自由に重さ比べができるコーナーです。収穫したトマトとおもちゃのスイカの重さを比べています。



自分の収穫したジャガイモを並べています。パッと見て、友達とどっちが多いのかがわかりそうですね。



野菜の絵本や図鑑は、いつでも見ることができます。

堺市共通版「架け橋期のカリキュラム」 5歳児(6月・7月・8月)育みたい資質・能力より抜粋

【知識及び技能の基礎】

・夏野菜や植物などの世話を通して、成長や変化、違いに気付き、関心を深める。

【思考力・判断力・表現力等の基礎】

・収穫した野菜などの数を数えたり、比べたりしながら、数量や形などに興味をもち、大きさや重さを実感する。

思わず比べたくなる環境が、用意されているね。

数量感覚は、小学校での算数科の学習の基盤となるものです。数量感覚のほかにも、世話の仕方を考えたり、植物の成長に感動したり、命の存在や素晴らしさに気付いたり・・・栽培活動にはたくさんの学びの芽があります。生活科でも「動植物の飼育・栽培」の内容があります。幼児期の経験をこどもに聞きながら活動を進め、今まで培った力をさらに伸ばせるといいですね。